

## 平成 22 年度 FID 日本男子代表候補選手第 1 次強化合宿レポート

### <5 月 1 日(土)>

今日から平成 22 年度日本男子代表候補選手第 1 次強化合宿がスタートした。選手が所属する企業の勤務状況、故障による欠員は数名いたが、招集された選手は元気良く笑顔が多かったのが印象的であった。今年 11 月にポルトガルで開催される INAS-FID バasketボール世界選手権の出場を目指し、「世界で勝てるチーム作り」を念頭にスタッフミーティングが開かれ、スタッフ間の意思統一を図った。その後、選手を含めてミーティングが開かれ、各スタッフから選手に対し、「日本代表選手としての自覚と責任」「日本代表チームの一員としてのプライド」等、話があった。

今年度からオリンピックを目指す日本代表チームと同じ練習着を着用することが可能となり、JBA、(株)アシックスの方々のご協力を得て、連盟にて準備をした。スタッフから手渡された選手達のモチベーションは当然ながらヒートアップした。視覚的に捉えることによってイメージは付き易い。

初日のため、主にコンディショニングが中心であったが、久しぶりに再会したメンバーは良くコミュニケーションを図り、昨年度に引き続き斉藤芳樹選手がキャプテンに任命された。

#### ■斉藤芳樹キャプテンコメント

新たなスタッフやメンバーが加わり、世界で互角に戦えるチームにしていきたい。日本男子特有のトランジションの速い展開のBasketボールを更に身に付け頑張っていきたい。

### <5 月 2 日(日)>

今年度から各ポジションに専属スタッフを配置し、専門技術の習得に多くの時間を割いた。選手の所属先クラブではスタッフに限りがあることから専門技術を学ぶことが少ない。新たにスタッフとして加わった宮岡正和コーチは 200cm の長身を生かし、現在も現役選手である。島貫選手(195cm)、須崎選手(190cm)、中野選手(194cm)、北島選手(181cm)等のインサイドプレイヤーは宮岡コーチの指導を真剣に学んでいた。また、アウトサイドのプレイヤーは斉藤コーチ、藤田コーチの指導のもと、ドリブルコントロールやパス、シュート、1on1、2on2 等のファンダメンタルドリルに徹した。

午後は社会人の人たちにご協力を頂き、実戦練習を行った。一度ミスが起きると連鎖反応が生じ、選手誰もが止めることが出来ない。ベテラン選手陣もミスをするのを恐れ、消極的なプレイになり結局ミスに繋がってしまう。コーチからも何度となく注意を受けるが、徐々に襲いかかるモチベーションの低下に歯止めがかからない。これは長年の課題である。コーチ陣は選手指導について多くの議論をするが、「自分で考えて物事を判断するし、解決する」ことをベースに指導をしている。夕食後、選手ミーティングを開き、今一度頭の整理に徹した。

#### ■齋藤コーチコメント

チーム全体の課題(取り組み)として、「状況判断」を挙げ強化合宿をスタートさせた。そこでまずその意識を高めるためにポジション別に徹底的に反復練習を行ったのだが、午後からの社会人とのゲームでは、一度型にはめてしまうとそれ以外の選択が出来なくなり、更にその点を指摘すると以前出来ていた事が出来なくなるという悪循環に見舞われた。結果、選手・コーチ共にジレンマに陥る場面が少なくなかった。今後は、早い展開の中でも①正確なパスワーク②力強いドリブル③試合全体の流れを意識できるように、引き続き粘り強く決め細やかな指導の必要性を感じた1日であった。

#### <5月3日(祝)>

午前中は都立北園高校を会場として借用し、高校生にご協力を頂き、実戦練習を主とした。参加をしている選手全員を対象に分解練習やスクリメージに起用し、選考判断の材料とした。昨日ミスの連発をした選手たちも気持ちを改め、心機一転に臨んだ。齋藤、鈴木、中野等のベテラン選手、藤谷、横田、野澤、三原等の中堅選手、隈元、須崎、島貫等の新人選手たちをバランス良くチーム編成し、選手誰もが積極的にプレイすることが出来た。スタッフとしても評価する部分が非常に多かった。中堅選手の三原選手であるが、今回の強化合宿では非常に積極的にプレイをし、リバウンドにもよく絡んでいる。また、今回 U-18 の育成強化選手として参加をしている中川選手(県立奈良高等養護学校)は日本代表チームの強化合宿に初めての参加ではあるものの、本来の素質を十分に発揮している。

高校生2チームとFID日本男子代表チームと行っていたため、途中休む時間が多くあった。選手たちの様子を確認したが、特にミーティングをしている様子も無く、無意識で過ごしている時間が多かった。休み明けに再度スクリメージを行ったが、初めに負けていた高校生チームが真剣になると、別人であるかのように動きが鈍った。チームとしても上手く機能しなくなり、前日と同様に歯止めが利かなくなり、自分たちで崩れていった。スタッフからも「気持ちの問題」を指摘され、選手たちはただパニック気味、またパニックを装っていた。スタッフから「精神論」が主となり、「技術論」の反省が少ないと指摘を受けた。

午後は会場を移し、順天高校で同様に実戦練習に臨んだ。午前中の練習から然程時間は経過していないものの、ベテラン選手は自分たちで確認しつつプレイをしていた。チームとしてのムードも向上し、本来自分たちが持っている力を出していた。多くの成功体験の中で「やれば出来る」という意識を持たせたい。確実に技術力は向上しており、自信を持ってコートでプレイして欲しいと常にコーチは思っている。

#### ■藤田コーチコメント

1戦目の出だしは、直前のミーティング(選手のみ)が功を奏したのか個々の選手の意識も高く、今回の合宿で取り組んだオフェンスが見事に成功した。インターバル後の二回目目の対戦では、FIDチームの課題が見事に露呈されたが、高校生チームを本気にさせたプレイの数々は収穫であった。

<5月4日(祝)>

最終日となり、選考される立場として最大限にコート内でパフォーマンスするように指示をした。「コートに足を踏み入れた瞬間から戦いは始まっている」と選手には常に伝えている。齋藤コーチからも「良き仲間であり、良きライバルである」「甘い感覚でコートに立つ必要はなく、力無きものはコートから去るしかない。真剣勝負で戦う場所であるから・・・。」とアドバイスを受けている。

全体練習に入る前にポジション別ドリルを実施した。ガードは齋藤コーチ、フォワードは藤田コーチ、センターは宮岡コーチがそれぞれ担当した。どの分解練習を見ても、基礎が出来ていなければ向上は無い。このように専門的指導を受けている時に多くのことを学んで貰いたい。

全体練習ではポジション別にバランス良く分け、A チームを藤田、宮岡コーチが担当、B チームを齋藤、小嶋(祐)コーチが担当した。コーチから指示を受けていることがどれだけ理解しながらコート上でパフォーマンス出来るかを観察及び確認をした。やはり実戦練習が多くなると、それ以前に行っていた分解練習のポイントを忘れがちになる。選手個々が勝手に動き回り、点でしか動かなくなる。コミュニケーションを図りながら線で動くためには何が必要かを常に確認するように伝えているが、中々声を出して相手に伝えることが出来なかった。その中で鈴木選手はベテランらしい周りへの配慮を欠かさない。ミスが生じると仲間を集め、必ず確認をしていた。日本代表チームで学ぶことは技術だけではない。

<総括>

久し振りの日本代表強化合宿であったが、選手自身のコンディションの波の問題はあるにせよ、選考材料が多く見付き、大変充実したものであった。本来持っている力を中々日本代表では発揮することが出来ない選手が多いが、スタッフ陣のサポート体制も充実している。我々も常に現場では選手との戦いである。真剣勝負で指導していることを選手たちが「どのように感じ」、「どのように考え」、「どのように理解するか」である。少しずつではあるが確実に成長している選手に今後も期待をしたい。

今回の強化合宿では実戦練習の中で高校生、社会人の方々にご協力を頂きました。チームを代表し、心から感謝申し上げます。

男子代表チーム コーチ 小川 直樹